



【特別審査員賞】 ふくい 福井 あつお 敦男

僕が首の骨を折ったせいで、あなたとは離れ離れになってしまいました。  
結婚の約束もしていたし、あんなに愛し合っていたというのに、  
間もなく夫婦になるという目前に別れてしまいました。

僕もあなたも、たくさんたくさん泣きました。  
あなたは僕の回復を必死に祈ってくれましたが、  
回復は遅々として進みませんでしたね。

四肢の麻痺は免れたものの、ダメージは相当で、社会復帰はおろか、  
明けても暮れても布団に仰臥している身ではどうしようもありませんでした。

あれからちょうど二十年の歳月が流れました。  
風の便りで、あなたは僕と別れて二年ほど経ったのち、  
結婚して北陸に行ったと聞きました。僕の方は手術もしましたが相変わらずで、  
未だ寝たり起きたりの苦しい生活を続けています。

お元気ですか？ あなたは今幸せですか？

僕にとってあなたは人生で出逢ったたった一人の女神です。  
あなたのことを心配する資格がないことは分かっていますが、  
首に刺さったチタンボルトが軋んで眠れぬ夜、  
ふと北の夜空を眺めてみれば、いつもあなたの顔が浮かんでくるのです。  
明るく笑っていた頃のあなたの顔が.....。

あなたと過ごしたのはたった三年半だったかもしれません。  
ですが濃密で幸せだったあの頃の記憶を抱きしめて、  
この先の人生を生きて行こうと思います。

目を瞑れば浮かんでくるあなた。

どうかお幸せに。

今夜も北の夜空を見上げて、京都の実家からあなたの幸せだけを  
祈っています。

(京都府／51歳／無職)

